

第74回西日本泌尿器科学会総会

Urology; Past and Next 10 Years

教育セミナー2

アピアランスとアンドロロジー ～毛髪からメタボ、癌性悪液質～

開催日時 2022年11月4日(金) 12:00～12:50

会場 北九州国際会議場
第2会場 2F 国際会議室

座長

産業医科大学 医学部
泌尿器科学講座 教授

藤本 直浩先生

演者①

LS2-1 アンドロロジーから見た男性型脱毛症の 病態と治療

大阪大学大学院医学系研究科 皮膚・毛髪再生医学(アデランス) 寄附講座
特任教授

乾 重樹先生

演者②

LS2-2 アンドロゲン低下症と生活習慣病、癌性悪液質

金沢大学 大学院医薬保健学総合研究科
泌尿器集学的治療学講座 教授

溝上 敦先生



大阪大学大学院医学系研究科
皮膚・毛髪再生医学(アデランス)寄附講座
特任教授

乾 重樹 先生

▶ アンドロロジーから見た男性型脱毛症の病態と治療

男性型脱毛症は毛乳頭をアンドロゲンの標的としたアンドロロジー疾患と捉えることができる。基礎医学的な面から男性型脱毛症の病態研究の潮流を振り返りながら、主に男性型脱毛症の病態におけるandrogen axisの意義について我々の研究をまじえながら述べる。男性型脱毛症の本態は、アンドロゲンの影響によって成長期の短縮を伴って毛周期を繰り返すうちに毛包構造がミニチュア化を来し十分に太い毛幹を形成できなくなることである。男性型脱毛症において病因論的な役割を果たすandrogen axisの因子としてはII型5 α -還元酵素、アンドロゲン受容体、Hic-5/ARA55などのアンドロゲン受容体共役因子、TGF- β 1,2,DKK-1などのメディエーターが重要であると考えられる。また新しい発毛デバイスとして演者らは赤色Light emitting diode (LED)をマウス背部や培養ヒト毛乳頭細胞へ照射し、毛乳頭から誘導されるHGF、VEGF、Leptinを介して成長期が延長することを明らかにした。また男性型脱毛症および女性型脱毛症に対して単独療法として6か月間赤色LED照射を行ったところ、4例中3例で毛髪数、毛直径、軟毛率の改善が得られた。さらに自宅で行うセルフケア型赤色LED照射器では著効を示す症例が経験されているので症例を供覧したい。

略 歴 等

【略歴】

1991年 大阪大学医学部医学科卒業、医師免許取得
1991年 大阪大学医学部皮膚科学教室入局
1992年 大阪労災病院皮膚科医員
1993年 大阪大学大学院医学研究科入学
(皮膚科学・生化学専攻)
1996-8年 米国留学(ウイスコンシン大学、ロチェスター大学)
この間、1997年 大阪大学大学院博士課程修了、学位取得
1999年 大阪大学医学部皮膚科学教室医員
2000年 大阪大学医学部皮膚科学教室助手
2006年- 大阪大学医学部皮膚・毛髪再生医学寄附講座
准教授(附属病院皮膚科兼任)
2016年- 心齋橋いぬい皮フ科院長
2016-8年 大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学講座招聘教授
2018年- 大阪大学医学部皮膚・
毛髪再生医学寄附講座特任教授

【専門医資格】

日本皮膚科学会専門医、日本アレルギー学会専門医・指導医、
日本抗加齢医学会専門医、日本化粧品医療学会専門医

【学会役職など】

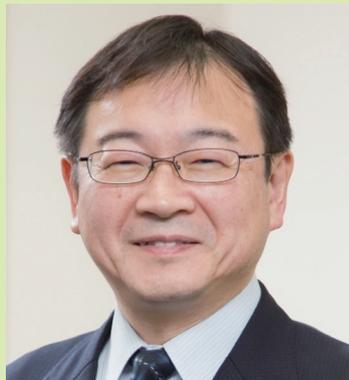
日本臨床毛髪学会理事長、日本毛髪科学協会副理事長(資格審査
委員会委員長、中長期事業計画委員会委員)、日本美容皮膚科学
会理事(倫理委員会委員長、機関誌広告に関する委員会委員長、学
術教育委員会委員、機関誌編集委員会委員)、毛髪科学研究会世

話人、日本研究皮膚科学会評議員、日本抗加齢医学会評議員(臨床
研究促進委員会委員)、日本皮膚免疫アレルギー学会評議員(広報
委員会委員)、日本褥瘡学会評議員、日本化粧品療法学会評議員、
Editorial-in-Chief, Hair: Therapy & Transplantation, Senior
Editor, ScienceJet (Nanoscience and Nanotechnology
Section), Editorial Board, ISRN Dermatology, Journal of
Cosmetics, Dermatological Sciences and Applications,
Case Reports in Dermatological Medicine

【受賞】

第3回国際毛髪科学学会, Oral Presentation Award,2001,
第27回日本接触皮膚炎学会学術大会 ポスター賞2002,
JSID Shiseido Fellowship Award,2003.
第4回ガルデルマ賞, 2003.第24回日本美容皮膚科学会
アイデアアンドイノベーション賞,2006,
第107回日本皮膚科学会総会 ポスター賞,2008,
第8回日本抗加齢医学会総会 奨励賞,2008,
第72回日本皮膚科学会東部支部総会 会長賞,2008,
平成22年度日本皮膚科学会雑誌論文賞
(The Journal of Dermatology),2010,
F1000Prime AFM Travel Grant 2013, JD Award, Most
Downloaded Articles in 2013,
第14回日本抗加齢医学会総会プレナリー賞,2014,
第33回日本美容皮膚科学会優秀演題賞,2015.

演 者②



金沢大学 大学院医薬保健学総合研究科
泌尿器集学的治療学講座 教授

溝上 敦 先生

▶ アンドロゲン低下症と生活習慣病、癌性悪液質

進行前立腺癌に対してアンドロゲン除去療法(ADT)は必須の治療法である。ADTを行うと多少毛髪が増え、患者が喜ぶことがあるが、多くの場合、男性においてアンドロゲンが低下すると様々な弊害が生じることが多い。いわゆるメタボもアンドロゲン低下に伴う代表的な疾患である。また進行癌にしばしば見られる癌性悪液質においても男性ではしばしばアンドロゲンが低下していることが明らかとなってきた。アンドロゲン低下に伴うメタボや癌性悪液質の改善には直接アンドロゲンを補充することが近道と考えている。今回の講演では、アンドロゲン補充によるメタボの改善や癌性悪液質の改善効果について説明したい。この講演が少しでも日常診療に役だってもらえれば幸いである。

略 歴 等

【略歴】

産業医科大学医学部/医科大学 S62年卒

【職歴】

産業医科大学 病院 泌尿器科 勤務 (1987年~1988年)

産業医科大学 大学院 (1988年~1992年)

産業医科大学 医学部 泌尿器科 助手 (1992年)

Wisconsin大学Comprehensive Cancer Center留学
(1992年~1995年)

産業医科大学 病院 泌尿器科 助手 (1995年~2000年)

金沢大学医学部 泌尿器科 助手 勤務 (2000年~2004年)

金沢大学医学部 泌尿器科 講師 勤務
(2004年~2013年9月)

金沢大学医学部 泌尿器科 准教授 勤務
(2013年10月~2016年7月)

金沢大学医学部 泌尿器科 教授 勤務
(2016年8月~現在に至る)

【資格】

専門医(960239号1996年4月)、
指導医(2001015021号2001年4月)

【所属学会】

日本泌尿器科学会、日本癌治療学会、日本内分泌学会、日本癌学会、日本アンドロロジー学会、分子生物学会、アメリカ癌学会、アメリカ癌治療学会、日本思春期学会

MEMO

Aderans

